

2 個別計画

(1) 景観の整備

① 視点場と眺望

散策路や広場、遺構表示箇所、楯山公園等に視点場を設定し、そこから城内・外を眺める環境を整備する。城内では切岸や曲輪が連なる山城の造作や工夫、城外への眺めから最上川を見下ろす立地や急斜面を利用した防御線の構造、周辺の山城との連絡などが理解できるように眺望環境の整備を図る。

具体的には、各視点場からの眺望や地形の視認を阻害するスギやクルミなどの樹木を伐採し、ササやシヤガなど背丈の低い草本が地面を覆うように努める。なお景観の整備とあわせて、城の構造上ポイントとなる視点場には遺構の説明などを表示し、城のみどころである地形や眺望の解説を行う（図 21 サイン設置計画）。

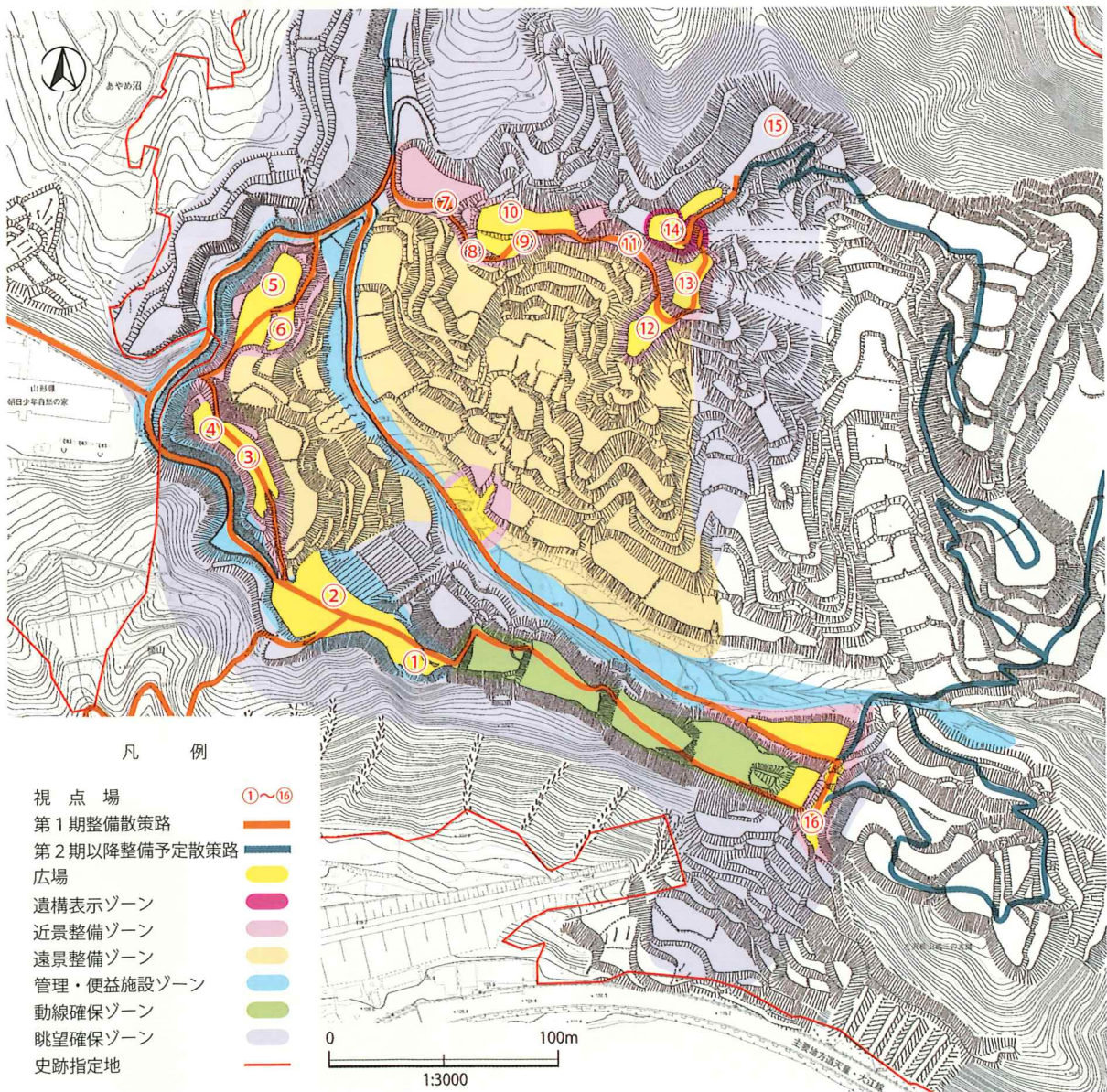
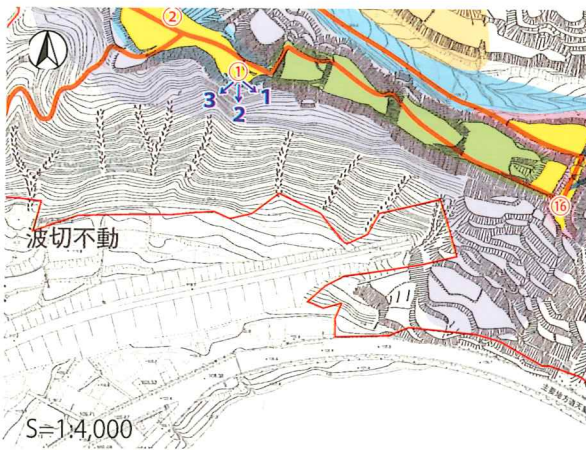


図 3 視点場位置図（史跡指定地内）



視点場① 楯山公園東部

楯山公園の東屋前は、平成26年度に豪雨災害の復旧工事を実施した。最上川と麓の町並みを一望でき、城の立地条件を理解できる場所である。第1期整備後は、現在の眺望環境を維持するように、斜面部の樹木や公園の生垣などの管理を行う。



視点場①-1 4月



視点場①-1 10月



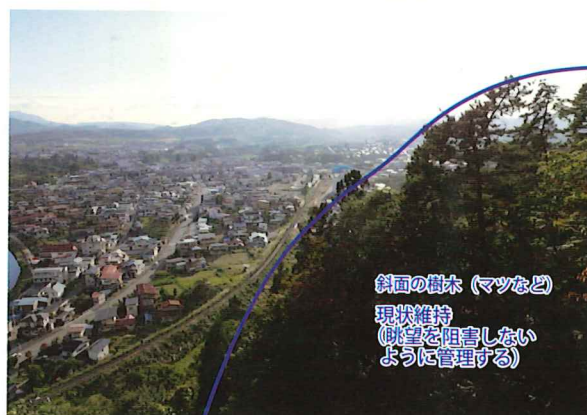
視点場①-2 4月



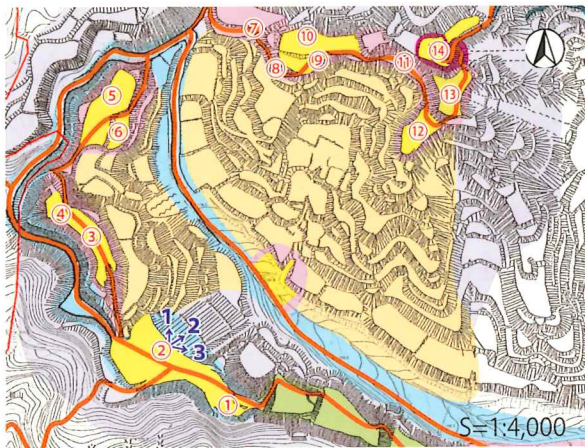
視点場①-2 10月



視点場①-3 4月



視点場①-3 10月



視点場② 楯山公園北部

平成 26～27 年度、豪雨災害の復旧工事を実施した場所である。本来は「八幡平」下部の斜面や蛇沢を挟んだ「八幡座」周辺の曲輪群が見える場所だが、現在は植物が茂り曲輪の地形が視認できない。「八幡座」、「八幡平」付近の樹木を伐採して地形が見えるようにし、視点場には説明板を設置する。



視点場②-1 4月



視点場②-1 10月



視点場②-2 4月



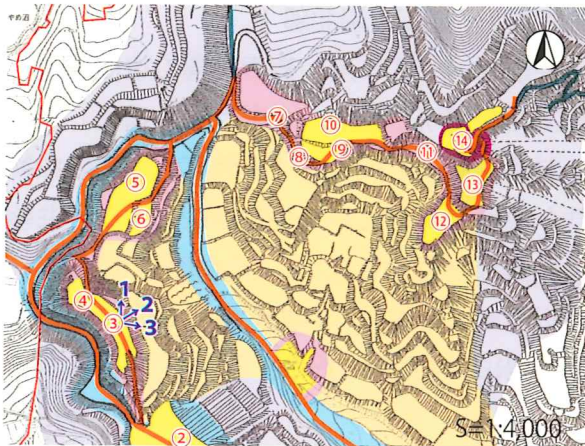
視点場②-2 10月



視点場②-3 4月



視点場②-3 10月



視点場③ 「八幡平」中央部

楯山公園北西に接続する「八幡平」では、発掘調査で柱穴が検出された。左沢楯山城の山頂「八幡座」から西側に広がる曲輪群が望める場所だが、蛇沢沿いの斜面に眺望や地形の視認を阻害する樹木が存在する。これらの樹木を整理して、「八幡座」方面への眺望を確保する。



視点場③-1 4月



視点場③-1 10月



視点場③-2 4月



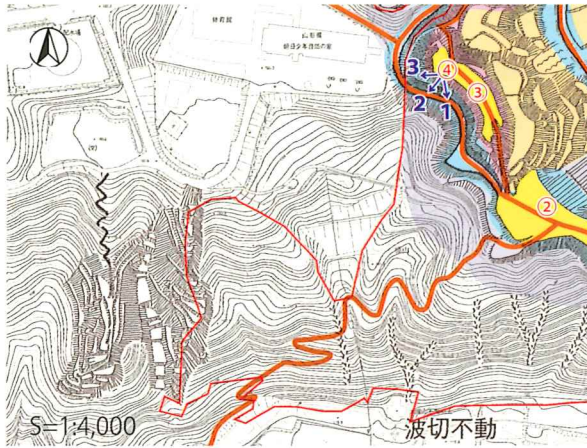
視点場③-2 10月



視点場③-3 4月



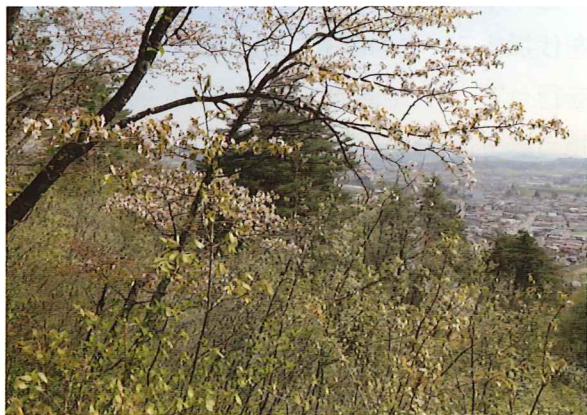
視点場③-3 10月



視点場④ 「八幡平」西部

「八幡平」の西端に位置する。南へ目を向けると木々の間から、西へ広がる大江町の集落や遠く朝日連峰まで望むことができる。

現在の眺望環境を維持し、視点場周辺や西側斜面の樹木が繁茂しすぎないように管理を行う。



視点場④-1 4月



視点場④-1 10月



視点場④-2 4月



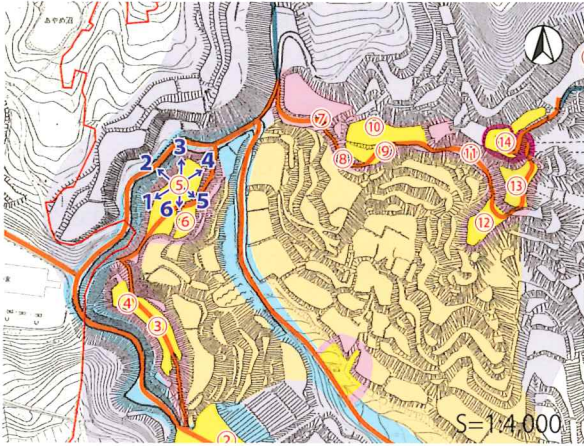
視点場④-2 10月



視点場④-3 4月



視点場④-3 10月



視点場⑤ 「八幡平」北側曲輪上段

「八幡平」より土橋を渡って北側の曲輪に位置する。早春や晩秋には西に月山や葉山、北東に「八幡座」周辺の曲輪群を望むことができる。

史跡指定以前は果樹畑（サクランボ）であったが、史跡指定後、町による公有化に際し果樹木を伐採した。これに伴い植生が大きく変化して、夏季はツル植物が著しく繁茂するとともに、付近に生えるキリやクルミの進出がみられる。

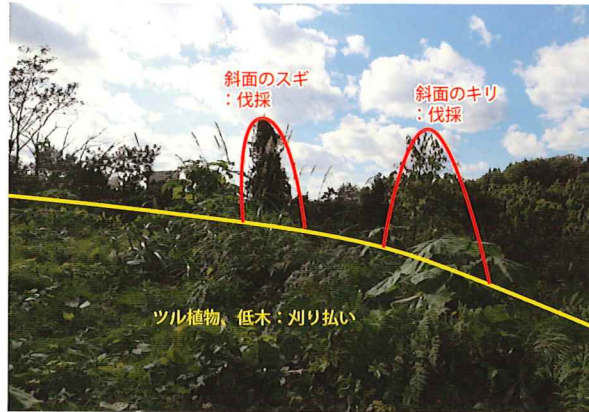
第1期整備では北西への眺望を阻害する樹木を伐採する。あわせて、視点場周辺の刈り払いを行って、クズや草本の繁茂を抑えるとともに、視点場付近に眺望をさまたげる樹木が生えないようにする。



視点場⑤ 4月の状況



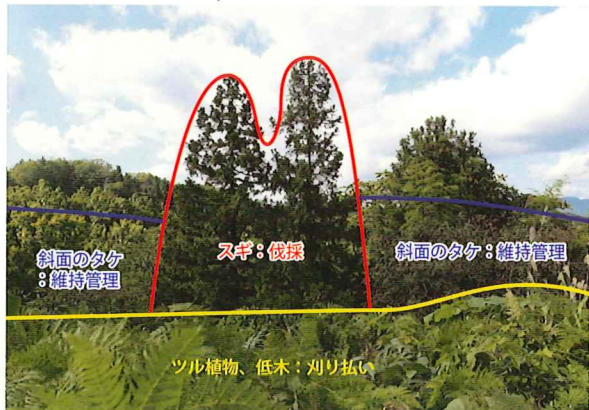
視点場⑤-1 4月



視点場⑤-1 10月



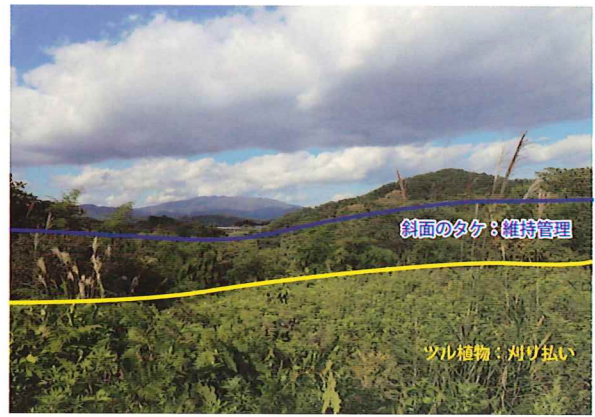
視点場⑤-2 4月



視点場⑤-2 10月



視点場⑤-3 4月



視点場⑤-3 10月



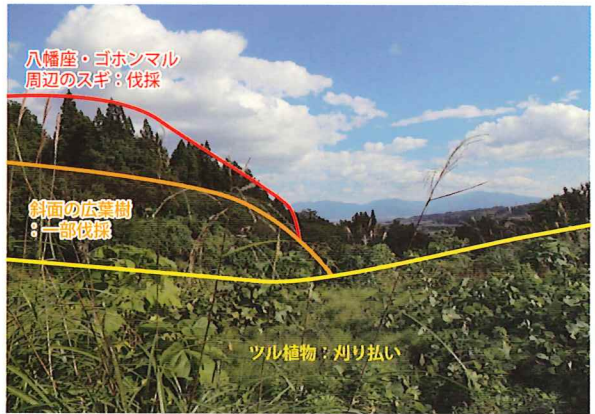
視点場⑤-4 4月



視点場⑤-4 10月



視点場⑤-5 4月



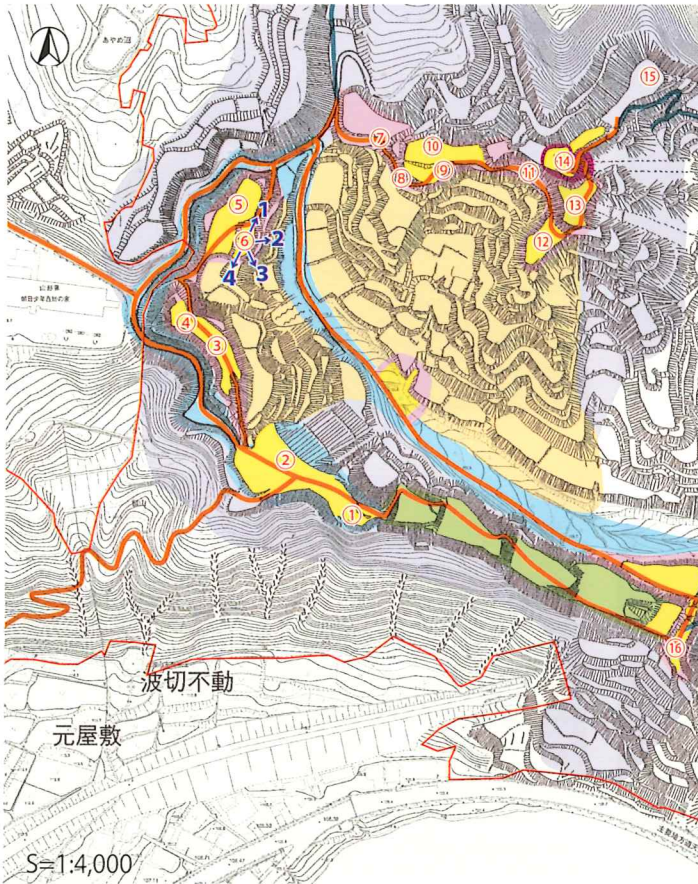
視点場⑤-5 10月



視点場⑤-6 4月



視点場⑤-6 10月



視点場⑥ 「八幡平」北側曲輪下段

⑤の曲輪より西に一段下がった場所で、⑤同様にサクランボの畑であったが、町による公有化に伴い植生が変化した場所である。

蛇沢や「千畳敷」、「八幡座」といった城内の要所とともに、遠くに大江氏が当初拠点を築いたとされる最上川沿いの丘陵を望むことができる。

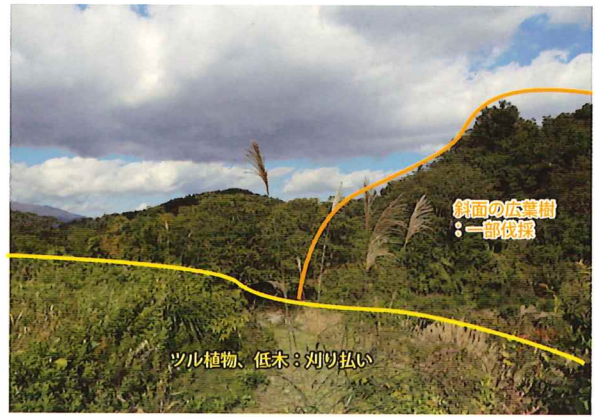
樹木の整理と管理によって、城内各所への見通しと、城外への眺望を確保する。眺望と説明板をとおして城の立地や構造が分かる場所とする。



視点場⑥から 南西方向 遠景の眺望



視点場⑥-1 4月



視点場⑥-1 10月



視点場⑥-2 4月



視点場⑥-2 10月



視点場⑥-3 4月



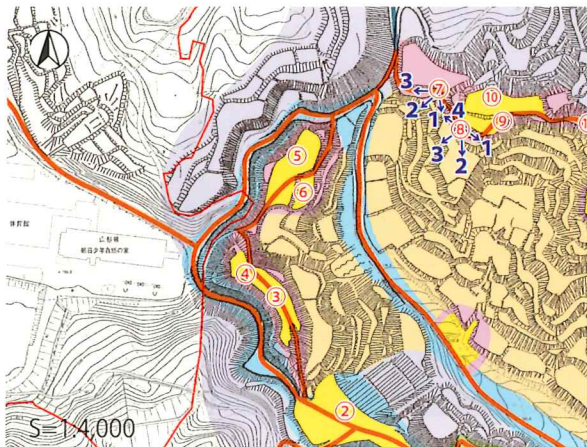
視点場⑥-3 10月



視点場⑥-4 4月



視点場⑥-4 10月



視点場⑦ 八幡座地区西部散策路

蛇沢上流から山頂「八幡座」へ至る散策路上に位置する。城郭特有の植物とされるヤダケが分布している。早春は蛇沢対岸の「八幡平」北東斜面の曲輪群を正面に望むことができる。

ヤダケは手入れをして残しながら、「八幡平」付近の曲輪群を望むのに支障となる樹木を伐採し、夏季も曲輪群の地形が見えるようにする。

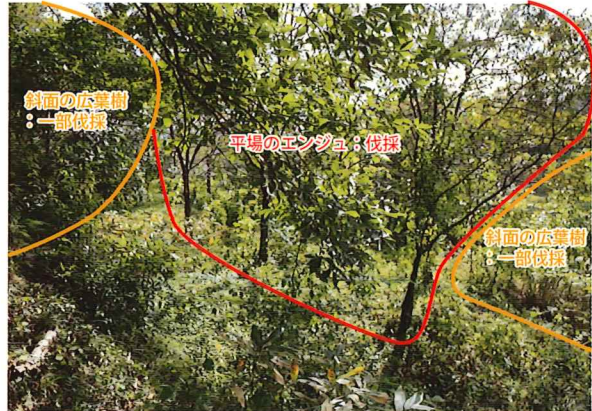
視点場⑧ 八幡座地区西部曲輪入口

「八幡座」西側に連なる曲輪群のうち2段に分かれた曲輪の入口付近である。早春はスギが一部を阻害するものの、蛇沢越しに「八幡平」北側斜面の曲輪群を望むことができる。しかし、夏季は葉をつけた樹木によって見通しがきかず、視点場がある曲輪も草やツル性植物が繁茂し足を踏み入れるのが困難になる。

スギや広葉樹など、西から南への眺望を阻害する樹木を整理し、「八幡平」西側斜面の曲輪群が見えるようにする。あわせて、視点場付近の刈り払いを行って環境を整備する。



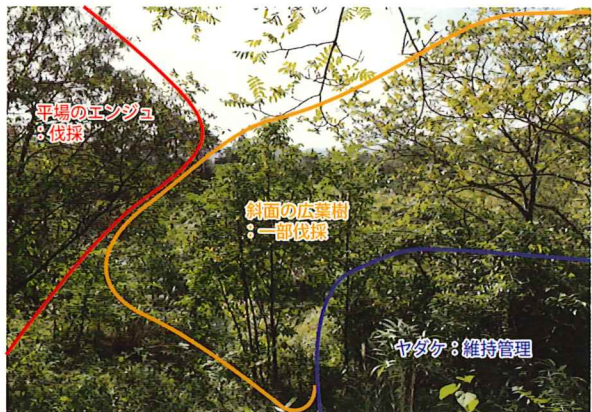
視点場⑦-1 4月



視点場⑦-1 10月



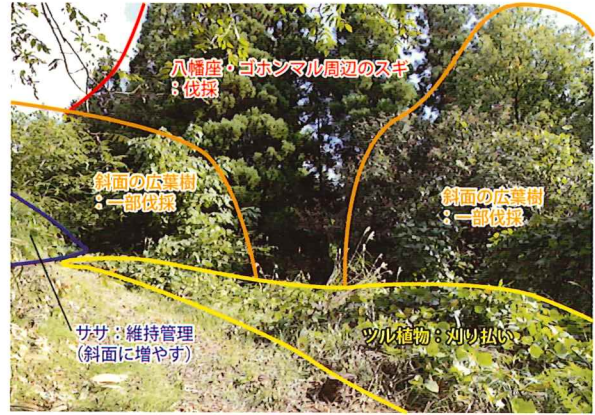
視点場⑦-2 4月



視点場⑦-2 10月



視点場⑧-1 4月



視点場⑧-1 10月



視点場⑧-2 4月



視点場⑧-2 10月



視点場⑧-3 4月



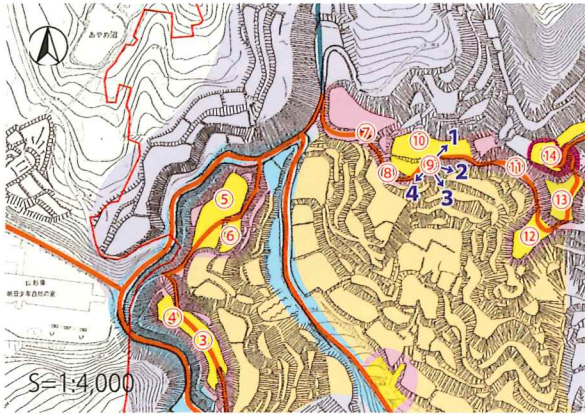
視点場⑧-3 10月



視点場⑧-4 4月



視点場⑧-4 10月



視点場⑨ 八幡座地区西部曲輪下段

⑧の曲輪の下段で城道の一部とみられる。視点場南下方に蛇沢から「八幡座」への登城路が想定される谷部の曲輪群があり、蛇沢対岸に「八幡平」が望める場所だが、現在は視点場の南側に分布するスギが眺望を阻害する。

曲輪の立地や城の地形が分かるように、周辺に分布するスギなどを伐採する。



視点場⑨-1 4月



視点場⑨-1 10月



視点場⑨-2 4月



視点場⑨-2 10月



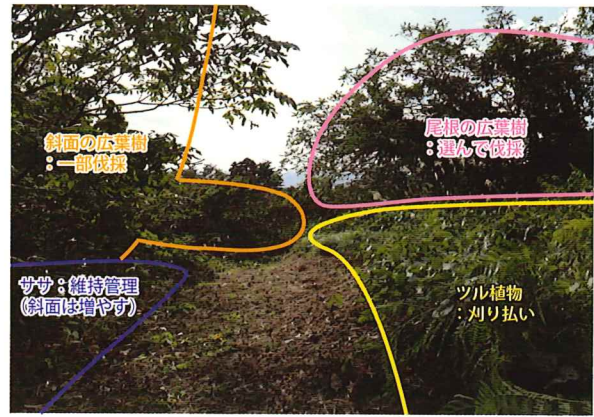
視点場⑨-3 4月



視点場⑨-3 10月



視点場⑨-4 4月



視点場⑨-4 10月

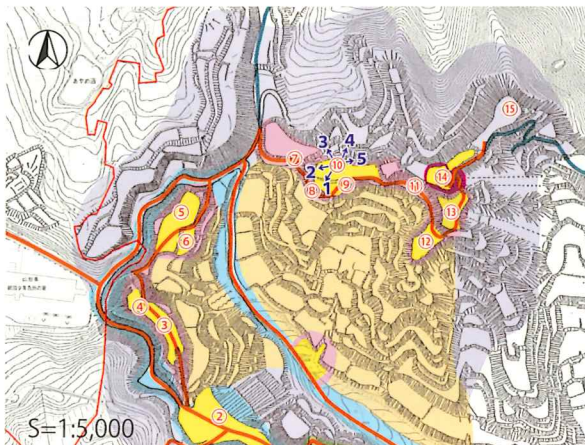
視点場⑩からの眺望（5月）



視点場⑩より望んだ朝日連峰 5月



視点場⑩より望んだ月山 5月



視点場⑩ 八幡座地区西部曲輪上段

⑧が位置するの曲輪の上段で、発掘調査では柱穴が検出された。早春は北から西の方向に月山や朝日連峰を望むことができる（p27 写真参照）。しかし、夏季は樹木が茂って眺望が利かず、視点場のある曲輪もクズや草が茂って歩き回るのが困難になる。

第1期整備では視点場から、月山や朝日連峰への眺望を意識して樹木を伐採する。また、視点場のある曲輪の刈り払いを行って環境の整備を図る。



視点場⑩ 4月の状況



視点場⑩-1 4月



視点場⑩-1 10月



視点場⑩-2 4月



視点場⑩-2 10月



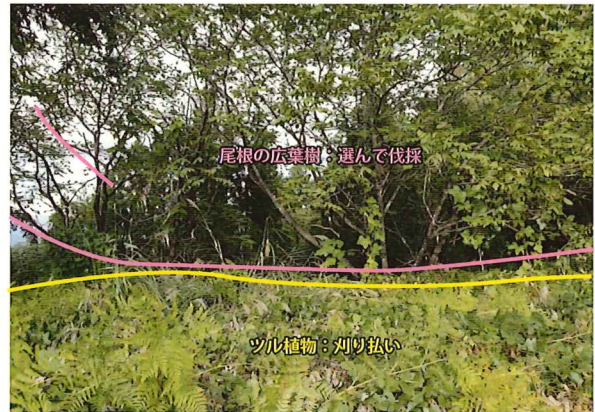
視点場⑩-3 4月



視点場⑩-3 10月



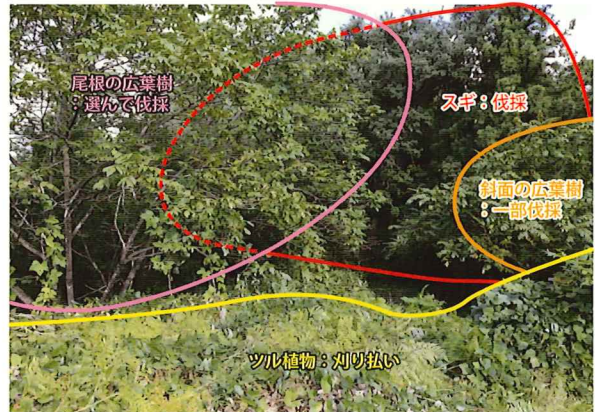
視点場⑩-4 4月



視点場⑩-4 10月



視点場⑩-5 4月



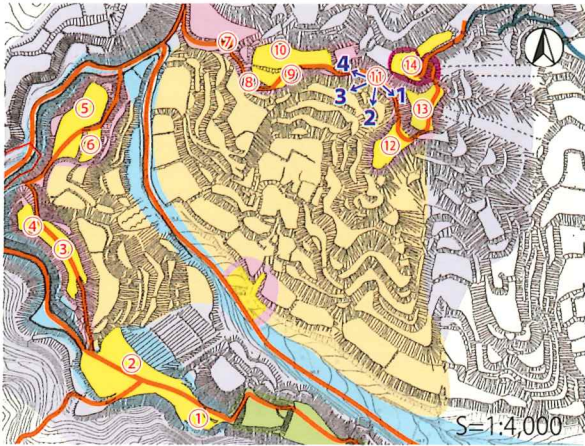
視点場⑩-5 10月



視点場⑩-6 4月



視点場⑩-6 10月

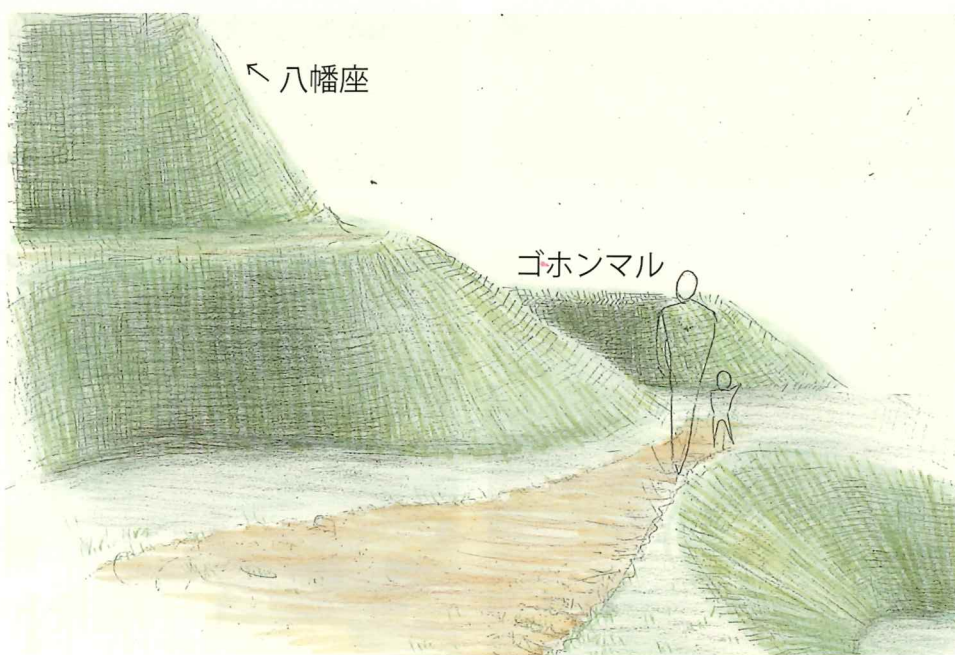


視点場⑪ 八幡座地区南西散策路

「八幡座」南西下方の帯曲輪を利用した散策路である。平坦部及び散策路両脇の斜面に植林によるスギ林が広がる。帯曲輪や切岸など周辺の地形が分かるようにスギを伐採する。これまで日陰であったが、スギの伐採により日当たりがよくなるので、整備後は草やツル性植物の繁茂といった植生の変化に留意し、斜面が裸地化しないように管理を行う。



(現況)



視点場⑪ 地形イメージ